

## 令和7年度に実施したインタビュー・ワークショップの概要

# まちのえき自治会長インタビュー

複合型コミュニティ(まちのえき)に取り組む自治会長にヒアリングを実施

- ✓ まちのえきの利用は、一部の住民に限られている
- ✓ 自治会長さん個人の資質や熱意に運営が依存している
- ✓ 現役世代は自治会自体への関与が非常に希薄

# グループインタビュー

## 【主題】

# いまこの時代に、ご近所さんとつながる意義とはなんだろう？

インターネット、SNS、EC等。  
不自由のない生活インフラ、交  
通・物流網。

たまたま家が近いだけ？  
仕事や趣味の仲間なら、ご近所  
さんじゃなくてもいい？

実際にいまあなた自身、  
ご近所さんがいなくて困るシー  
ンや実感ってある？

- ✓ ご近所づきあい全般についての意識
- ✓ 自治会への参加実態と意識
- ✓ 自治会以外での地域のつながりについての実態
- ✓ その他

# グループインタビューでの主要な発言抜粋

# つながる価値

## つながりがなくて 困ったこと

- ・春から小学校に入るが、小学生の保護者の知り合いがおらず、**学童のリアルな口コミが聞けず困っている**。民間の方がいいのかとか、勤務時間を変更した方がいいのかも判断できない。違う地域に住んでる友達に聞いたりするけど、生駒のリアルの話が聞けたら不安に思うこともないのに。
- ・引っ越してきたばかりのころ、**知り合いがいなくて寂しかった。心細かった**。
- ・70、80代の高齢者が多い地域に住んでいて、最近不審な人がいるという話もあり、**地域で防犯の情報を共有したり、声かけたりできると助かるのに**。(私が困るというよりは、親世代のために。)

## つながりがあって 良かったこと

- ・仕事もフルリモートで気が付くと誰とも接しない日も。**住んでいる地域に知り合いがいるというだけで心強さが全然ちがう**。疎外感があったけど、**知り合いができてからは生駒に受け入れてもらえた感覚になった**。
- ・同じマンションの人で家族みたいに頼れる存在ができて、実家も遠いし、**メンタルを支えてくれている**。こどもの面倒で困ったら助けを求めたり。
- ・障がいを持っている娘のために、学校の友達や、自治会など積極的に交流。マンションの敷地内を歩いてたら、**結構声をかけてもらえる**。**良い地域に恵まれた**など思っているし、そのために10年以上、地域の人とコミュニケーションをとってきた。

# 自治会へのネガティブな気持ち

- ・70代以上の高齢者が多く、気を遣う。
- ・同じ自治会に参加するにしても、イベントに参加するのと班長として参加するのは心構えが違う。やりたいことと、やらなきゃいけないこと、という自分の捉え方で気持ちが違う。
- ・自治会のやらなきゃいけない感が苦手。仕事はお金の関係で割り切れるけど、自治会の割り切り方が分からなかった。
- ・自治会の入り方も、入る必要があるのかも、何をやっているのかも、分からない。外からだと何やってるのか全然分からない。もっと何やってるか分かるといい。
- ・めんどくさそうなイメージ。周りの人からも、自治会が面倒くさいという話は聞くけど、すごく良くて、という話は聞かない。自分と同世代がいないとやりづらい。どう接したらいいかわからない。
- ・自治会の役員ではないが自治会総会に行き、地域の公園でマーケットを開催しませんか？と提案。文句を言いに来た人だと勘違いされた。町を良くしたいというのではなく、やらされ感の人達。お金や労力のことを言い出されてうまくいかないと思った。
- ・4年前に引っ越してきて地域のつながりが欲しくて自治会に自ら加入。自治会の課題を変えようと4年間関わってきたが、どんだけ伝えても伝わらないし、変わらない。選ばれて仕方なくやる人が主体的になるのは本当に難しい。孤軍奮闘でむなしかった。

# 理想的な地域とのつながりとは？

- ・**徒歩圏や物理的な距離で無理してまでつながりが欲しいと思うことはない。**年齢も上がって時間も限られているから。
- ・自治会の意義ってなんだろう？って皆さんの話を聞いて改めて思った。**無理に近所で、自治会でつながりを縛る必要はない。**
- ・リソースを割いて大変な思いをするよりも、**同じ想いを持っている仲間を見つけてやっていきたい。**敵ではないので、**徐々に自治会とも融合していけたらいい**と思ってる
- ・有志でつながる、**志がある人がボトムアップでつながって活動した方が、リソースやお金をさくに値する。**別に自治会にこだわる必要はなくて、気が合うコミュニティに入った方がいい。

ご近所の自発的なつながりが、地域のいいことを生み出している事例の共通パターン

1

スキル発揮型

Can

共同菜園の新たな担い手  
@東京都東久留米市



2

楽しさ先行型

Want

羽根木プレーパーク  
@東京都世田谷区



3

問題意識先行型

Need

育ちの会「ありのまま」  
@兵庫県西宮市



## 事例から改めて感じた「地域のつながりの可能性」

・マルシェをやっているが、色んな人の支援があってイベント成り立つし、一人では難しい。いい人と出会えた時はこの3つのうちのどれか。

・3つ目のパターン(問題意識先行型)に共感。こういうのがしたいと思って事例も探している

・自治会で自分でやってたのは、1つ目(スキル発揮型)と、3つ目(問題意識先行型)。地域に防災計画がなかったが、防災士の資格持ってることから仲間と一緒に地域に防災計画をつくった。役に立っているという実感が持てれば、嬉しいしやる気が起きる。

・自治会活動しながら波長が合う人と仲良くなった。本当に数人だけど、気が合う人と知り合う可能性もあり、その入口になる。

・子ども会に期待したい。そこに仲間がいればいいなと思ってる。あきらめるのはまだ早いかも。

・自治会が活発な地域に住んでいるが、活発だからこそ疲弊して退会する人も多く高齢化してる。今岐路に立たされている。わたしは逆に自治会に入り続けて、小さくてもいいから風穴をあけてやろうと思ってる。

・障がいを持っている娘のために自治会に入っていたが、高齢者の見守りと障がい者のサポートは近いところがあり、協力しあえば地域でもっと住みやすくなるはず。今日話を聞いて、自治会と距離を置くのではなく、自治会の中で、やれることはないか考えてみたいと思った。自分がやってきた仕事や研修受けてきたことが、高齢者の方にはお役立ちできるので。

・近いご近所ではなく、広いご近所の意識で、町の中に小さなコミュニティがたくさんあり、その輪が重なってるところもあったり、というのがみんなが住みやすい地域になると思う。

## 事例をみて気づいた「今つながれていない理由」

- ・知り合いが欲しいが、どうしたらいいのかわからない。
- ・一緒に勉強した人も、なかなか最初の一步を踏み出せない人が多かった。生駒に根を張ろうと思っているので、やりたいことをやる勇気を出そうと思う。
- ・「地域の子育てを手伝ってあげたいけど、あまり入りすぎるとお節介になってしまう」と遠慮したり勇気が出ず行動できない人が近くにいる。そういう人が活躍できる場があるともっといいのに。
- ・子どもや高齢者、障がい者、大変な思いをしている人に協力したいと思う。在宅2時間みるだけでも全然やるのにな、と思う。スキルや発想はあるけど勇気がない。そう思っている人は結構いると思う。最初の一步が踏み出せない人多い。
- ・相談のってくれる人や、つないでくれる人・場所があればいいのに。
- ・マーケット部みたいなのに、枠とか型を用意して募集してもらえたら行動にうつす勇気が出てくる。

## グループインタビューまとめ

### 確認された「つながりたい欲求」

- 転居してきてすぐ、孤独感が強かった。
- 子どもの相談をできる人がいなかった。
- ご近所さんと物々交換している。心強い。

### 明らかになった「自治会への忌避感」

- 何をやっているのかわからない。
- 何か役目を負わされそう。
- 役員ではないが、総会に出たら居場所がなかった。

まちを面白くするご近所アイデア会議

## 【主題】

### 新しいご近所づきあいのカタチ

～家ごとにバラバラではなく、ご近所さんと一緒にやった方がいいこともあるのでは？～

- ✓ ご近所さんと一緒にやれると良いと思うこと
- ✓ 「ご近所づきあい実施時のモチベとハードル」の探索

ワークショップで出た意見

市民は「ご近所さんと一緒にやれるとよいこと」を積極的に発想。  
活動参加へのモチベーションもさらに活発な意見と賛同が生まれていた。

### 食事で交流会

- ✓ 誰かにふるまうことも自分の喜び
- ✓ レシピも交換出来たらうれしい

### イベント共同開催 (焚火・花火)

- ✓ とにかくイベントを楽しみたい
- ✓ 自分の経験値が上がる

### 送迎シェア

- ✓ 子どもの習い事の幅が広がりそう
- ✓ 親の時間が確保できる
- ✓ 求めているので自分も提供したい

### 大人の時間シェア

- ✓ 大人になってから友達を作るのが難しいのでいい機会になる
- ✓ お金を使わない楽しみ方が増える

### 草刈り・剪定・DIY

- ✓ 出来る人にとって楽しい取組
- ✓ 自分の庭もキレイにしてほしい

### 地域で子育て

- ✓ 仲間が増え、関係も深くなりそう
- ✓ 子どもと交流したい

### 日々の家事協力

- ✓ 人の役に立てたという喜びがある

その他さまざまなアイデア  
(共同で週末の買い出し／ペット預かり／学用品のシェアなど)

たくさんのアイデアとともに、参加モチベーションも多数の人が感じている。  
楽しさにも様々な形があり、困りごと解決、人間関係の広がりにも期待。

### 楽しさ/喜び

- ✓ とにかく楽しい(Aチーム)
- ✓ 誰かに料理をふるまうことで自分の喜びにもつながる(Bチーム)
- ✓ 「人の役に立てた」という喜びを感じられる(Aチーム)
- ✓ お金を使わない楽しみ方がつくれる(Bチーム)
- ✓ 普段やらないことをやって、自分の経験値が上がる(Bチーム)

### 日々のニーズに応える

- ✓ 切実なニーズがあると、自分でもやってやろうという気持ちになる(Aチーム)
- ✓ 時間が余ってる人にとって新しい時間の使い方(Aチーム)
- ✓ 時間の節約になる(Bチーム)
- ✓ 親だけの時間を増やせる(Bチーム)

### 人間関係が広がる

- ✓ 仲間が増えて関係性が広がる(Bチーム)
- ✓ ママ友以外の友達ができる(Bチーム)
- ✓ 個人のプラスマイナスを補いあえる(Bチーム)

一方で、参加へのためらいを生むハードルも確認できた。  
全体を通して「責任」「人間関係」「負担」「安全・安心」が4大ハードル。

### 「責任」への抵抗感

- ✓ 運転のときに事故を起こしたら？(B)
- ✓ 自分が作った料理で食中毒が出たら…？(B)
- ✓ 責任の伴うことはやりたくない(A)
- ✓ 責任が生じる関係性だと窮屈になる(A)

### 実施側の「負担」

- ✓ 急な自分の予定を優先しにくい(A)
- ✓ 事情によって実施側をできない人もいる(A)
- ✓ ボランティアなので負担を許容できるか(B)

### 適切な「人間関係」

- ✓ 頼りすぎると申し訳なくなる(B)
- ✓ いつも実施側だと不公平感がでる(A)
- ✓ 一度参加すると抜けづらい(B)
- ✓ ありがた迷惑な場合もある(A)
- ✓ 細かな金銭トラブルが起こるかも(B)

### 「安心・安全」の確保

- ✓ ご近所さんが必ずしもいい人たちと限らない(B)
- ✓ 人の家の敷地に入るとしたらハードルがある(A)
- ✓ 子供をけがさせたらどうしよう(B)

- 全体
  - ✓ 「ご近所さんと一緒にできるよいこと」は全員がアイデアとモチベーションを積極的に発想し、チームディスカッションも大いに盛り上がりを見せ、参加者の「ご近所づきあい」への潜在的な欲求の強さを改めて確認できた。
  - ✓ 一方、「参加ハードル」が実現のボトルネックになっていることも確認。「責任」「人間関係」「負担」「安心・安全」の4つ程度に集約される。
- Aチーム
  - 庭木の剪定やゴミ捨てなどは「ご近所さんと同じタイミングでやったほうがいいこと」であるという意見があった。ご近所ならではの「同時性」がある。
  - ご近所づきあいの土台が強い地区とそうでない地区が存在することが明らかとなった。
- Bチーム
  - 「習い事や、深夜の送迎など、ちょっとした困りごと」だけではなく「大人の夜カフェ」など余暇を楽しむ活動にもご近所さんとのつながりニーズはある。
  - どちらも「トラブルが発生しないか」「変な人がいないか？」などの安心感が活動の前提。
  - ある程度、実際に自分が進んでやるかといわれたら荷が重いという声も。「仕切ってくれる人」に期待しているという声も。



